第10回

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

9/21（木）～9/23（土）　教員研修会（仙台市・気仙沼市）を開催しました！！

今年度助成校30校30名の先生、ユネスコ協会協働枠で参加の２団体から各１名、計32名が参加し、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市の学校や震災遺構を訪問し、ＥＳＤ/ＳＤＧｓを踏まえた先進的な減災教育の理論を学びました。同時に、現地の減災学習の授業実践や児童・生徒、先生方との直性の対話を通じて、地域と連携した減災教育実践について学びを深めました。

◆初の試み◆

①ユネスコ協会協働枠の創設

今年度、新たに創設した学校と地域のユネスコ協会が協働して地域に根ざした減災教育活動を支援するユネスコ協会協働枠からは、奈良ユネスコ協会、大牟田地方ユネスコ協会の２団体が参加し、全国の先生とともに学び、学校と連携した減災教育活動を行ってための知見を深めました。

②ユース年代の育成

将来、教育の道を志す奈良教育大学ユネスコクラブの学生３名が運営スタッフとして参加しました。スタッフの一員として会場設営など研修会運営に携わると同時に、参加者と一緒に被災地の教育現場を視察。講義やディスカッションにも参加しました。教育現場を体感し、先生や生徒の生の声を聞き、学びを深めました。学生たちが本研修会での経験や学びを将来のキャリア形成に生かしてもらい、将来、先生として地域の減災教育の担い手となり、本プログラムに助成校として参加してくれることを期待します。

教員研修会の詳細につきましては、次ページ以降をご覧ください。
各ユ協・クラブ会員の皆さまには是非、皆さまの地域の学校の防災・減災教育活動に対し、地域からのご支援・連携をご検討いただければ幸いです。

（日本ユネスコ協会連盟　学校支援部　減災教育担当）

『アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム』では、３つの支援（機会）を提供します。

①学校への助成金支援（1校につき10万円）
②教員研修会（2023年9月21日（木）～23日（土）　仙台市、気仙沼市で開催）
③活動報告会・減災教育フォーラム（一般公開）（2024年2月2日（金）・3日（土）　東京都で開催予定）

これまで、本プログラムの助成により実施された教育活動に参加した教員、児童・生徒、地域住民は、82,000人を超えています。さらに、のべ216校、300名近くの教員が助成校として教員研修会、活動報告会・減災教育フォーラムに参加し、その時の学びや他校とのつながりを活用しながら各学校において防災・減災教育を推進しています。参加いただいた先生方からは、研修内容は他では経験できないものとして大変好評をいただいております。

本プログラムのホームページ（https://www.unesco.or.jp/gensai/）（ユネスコ　減災で検索）では過去の助成校の実践活動報告をご覧いただけます。（右のQRコードからもご覧いただけます。）

第 10 回

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

教員研修会(9/21(木)～9/23(土) 仙台市･気仙沼市) 開催報告

◆全国の先生が被災地の教訓・経験から学ぶ◆

今年度助成校 30 校 30 名の先生、ユネスコ協会協働枠で参加の奈良ユネスコ協会、大牟田地方ユネスコ協会から各１名、計 32 名が参加。仙台市・気仙沼市を訪問して実施しました。

参加者は専門家・有識者による講義やワークショップを通して、ＥＳＤ/ＳＤＧs を踏まえた先進的な減災教育の理論を学びました。同時に、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市階上地区の小・中学校や震災遺構を視察し、現地の減災学習の授業実践や児童・生徒、先生方との対話を通じて、いつ、どこで起こるかわからない災害を自分事として捉えることの大切さを実感しました。参加者は、今回の研修で得た学びや人とのつながりを生かして、自校に戻り地域と連携した減災教育に取り組みます。

◆初の試み、ユース世代の育成◆

今回、教育の道を志す奈良教育大学ユネスコクラブの学生３名が運営スタッフとして参加しました。スタッフの一員として会場設営など研修会運営に携わると同時に、参加者と一緒に被災地の教育現場を視察。講義やディスカッションにも参加しました。教育現場を体感し、先生や生徒の生の声を聞き、学びを深めました。学生たちが本研修会での経験や学びを将来のキャリア形成に生かしてもらい、将来、先生として地域の減災教育の担い手となり、本プログラムに助成校として参加してくれることを期待します。

【3日間の研修プログラム】

内 容	講師／ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰなど
【ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ】『「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」の意義と提案性 持続可能な未来を創る N 助型減災教育の研修プログラム』	及川幸彦先生
【研修1】講義『東日本大震災の教訓を未来につなぐ-大災害で生きた教育の力-』	及川幸彦先生
【研修2】講義『持続可能な社会の創り手を育てる減災教育～ESD/SDGsの視点からの減災教育の方向性とカリキュラムマネジメント～』	及川幸彦先生
【研修3】視察『『被災地区の証言から学ぶ』(杉ノ下慰霊碑視察)	語り部ガイドによる案内
【研修4】視察『震災遺(気仙沼市東日本大震災遺構･伝承館)から学ぶ』 中学生語り部による館内視察とトークセッション(参加者と伝承館館長および職員)	階上中３年生(館内語り部ガイド) 上田和孝先生(ﾄｰｸｾｯｼｮﾝﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ)
【振り返り】1日目の研修振り返り	及川幸彦先生
【研修5】授業視察『小学校における防災･減災教育の実践』(気仙沼市立階上小学校) 階上中3年生講師による防災教室、階上小児童による防災マップの発表など	階上小校長、安全担当主幹教諭、防災担当教諭、大津山 光子氏(ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ)
【研修6】授業視察『中学校における防災･減災教育の実践』(気仙沼市立階上中学校) 3年生の実践発表、生徒と参加者のディスカッション、備蓄倉庫見学など	及川幸彦先生(ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ)
【研修7】講義『多賀城高校の防災･減災･伝災学習』(宮城県多賀城高等学校)	小野敬弘先生(多賀城高校 校長)
【振り返り】2日目の研修振り返り(グループディスカッションと質疑応答)	上田和孝先生(ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ) 及川幸彦先生(講師)
【研修8】講話『復興における気仙沼市教育の取組』	小山淳氏(気仙沼市教育委員会 教育長)
【研修9】講義『防災･減災教育におけるＮ助の必要性～地域や外部とのネットワーク』	上田和孝先生
【研修 10】ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ『研修成果の共有と今後の展望～3 日間の研修のまとめと共有～』	上田和孝先生(ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ) 大津山 光子氏(ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ)
【総括】3日間の総括	及川幸彦先生

【主　催】公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
【協　力】アクサ生命保険株式会社、奈良教育大学 ESD・SDGs センター、認定特定非営利活動法人 SEEDS Asia
【後　援】文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
【ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ・講師】及川 幸彦先生（奈良教育大学 准教授）
【講　師・ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ】上田 和孝先生（新潟大学工学部附属工学力教育センター 准教授、認定特定非営利活動法人 SEEDs Asia アドバイザー）
【ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ】大津山 光子氏　（認定特定非営利活動法人 SEEDS Asia 事務局長）
【研修共催】気仙沼市教育委員会
【研修協力】気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校

【1 日目】（9 月 21 日　仙台市・気仙沼市）

◆及川幸彦先生による講義

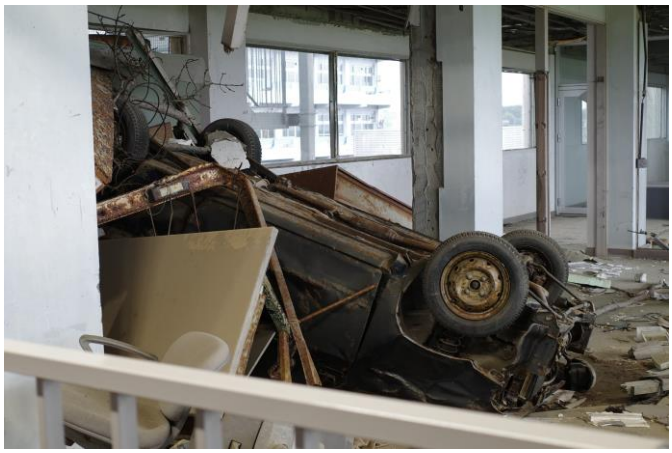
本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ/講師の及川幸彦先生（奈良教育大学）により、「本研修の意義と提案性」（ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ）のあと、「東日本大震災の教訓を未来につなぐ」、「持続可能な社会の創り手を育てる減災教育～ESD/SDGs の視点からの減災教育の方向性とカリキュラムマネジメント」についての講義が行われました。

「地域の災害リスクを知り、自分たちの命を守る防災・減災教育を学校と地域で行うことが大切である。未災地だからこそ危機意識を持ち、災害に備えなければならない。」という話がありました。

◆杉ノ下慰霊碑視察

東日本大震災で多くの犠牲者を出した杉ノ下地区の慰霊碑を訪問。震災を経験した語り部ガイドの案内では、震災当時や復興過程の話を聞き、改めて被災地の経験、教訓を地域の防災・減災に生かしていくのかを考えました。

◆気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館視察



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪問。語り部活動を行っている階上中学校の生徒の案内で館内を視察。被災した校舎内は、左の写真のように被災時の状況が残されています。中学生は、東日本大震災の記憶がほとんどない中、地域や学校、語り部の先輩から伝え聞いたことを理解し、自分の言葉で私たちに語ってくれました。震災を風化させずに、次世代や震災を知らない人たちに伝承しなければならないという使命感を強く感じました。

館内視察後、伝承館の芳賀館長、職員とのトークセッションを行いました。参加者との活発な質疑応答が行われました。語り部をしている職員の、「見学して感じたことを帰ってから家族にも話してほしいとガイドの最後に伝えている。」という言葉は、震災を風化させないために大切なことであると心に残りました。

【2 日目】（9 月 22 日　気仙沼市）

◆階上小学校授業視察◆

階上中学校３年生講師による防災教室の授業。防災かるたや紙芝居、塗り絵、クイズなど小学生の学年に応じた教材を用いて、防災についてわかりやすく指導していました。

階上小４年生による防災マップの発表。行政、自治会、階上中生徒など地域住民も参加しました。発表最後には、参加者から発表者に対して、良かった点や改善点などの助言がありました。単なる危険個所などを記した防災マップではなく、地域の町自慢（地域で自慢できるもの）も記載されていました。「復興により地域が整備されている中、町づくりの視点に立った防災マップの作成が、今後の町づくりに繋がると考えている。」という話は、自校で防災マップの作成に取り組んでいる

◆階上中学校授業視察◆

３年生より、学校の防災学習と個人探究学習の取り組みの実践発表がありました。個人探究学習の取り組みでは、災害の脅威や教訓をこれからの世代に正しく伝えるにはどうすればよいかをテーマにした発表がありました。「過去の災害を事実として伝えるだけでなく、これから起こり得る将来の災害を考え、いざという時に命を守れるよう備えてもらえるよう伝えたい」と、力強く話してくれた姿が印象に残りました。発表後は、質疑応答、ディスカッションを行い、最後には、参加者と生徒たちが自由に意見交換をしました。

参加者と中学生の質疑応答、ディスカッションの様子

◆宮城県多賀城高等学校 小野敬弘校長先生の講義

東日本で唯一災害科学科を設置している多賀城高校の小野敬弘校長先生より多賀城高校の防災・減災、伝災（災害を将来の世代に伝える）学習の講義がありました。「もし、自校で災害が発生したら、安全確保後、災害の痕跡や被災者の声などを記録に残すことが将来の危機管理・防災教育のために重要で、風化の防止、地域防災強化のためにはこれ以上の教材はない。」という話は、未災地の学校にとっても参考となりました。「避難訓練は生徒のためでなく教員のために行っている。」という話は、教員の意識改革や避難訓練の改善に役立つ話でした

【3 日目】(9 月 23 日　気仙沼市)

◆小山淳氏(気仙沼市教育委員会 教育長)による講話

東日本大震災からの復興の中で、気仙沼市が行ってきた教育の取組について講話いただきました。「震災から 12 年半経過して、すべての児童・生徒が震災を経験していない、記憶がない時代がきている。しかし、直接的な経験がなくても、教育には先輩から後輩へ受け継ぐ力がある。また、大震災から立ち上がってきた大人がいる。この両者を活用しながら、児童・生徒の当事者意識を高め、未来を創る教育を展開している。」という話がありました。

◆上田和孝先生による講義

上田和孝先生（新潟大学）による、学校と地域の連携における NPO/NGO の役割や、ネットワークの構築についての講義。「防災・減災教育のカギは、学校と地域のつながりであること。その中で、NPO/NGO が果たす役割は両者をつなげる支援をすること。NPO/NGO や地域と連携したい学校はオープンマインドでアクションを起こしてほしい。」という話は、地域との協働に悩んでいる学校にとって、大きな手掛かりとなる話でした。

◆ワークショップ(3日間の研修のまとめと共有)

３日間の研修のまとめとして、グループワークを行いました。研修で学んだことや課題を振り返り、今後自校に戻って取り組むことが話し合われました。最後に、全体発表を行い、各グループの意見が全体で共有されました。

◆3日間の総括(及川幸彦先生)

研修の最後には、及川幸彦先生による３日間の総括がありました。「平時よりＥＳＤを実践し、地域とネットワークを構築し、連携した学校教育活動を実践しないと、災害時には機能しない。」と、平時の取り組みの重要性の話がありました。また、「学習指導要領の資質・能力を育てるためには、減災教育が有効で役に立つので、減災教育は教育の本流であるという気持ちで主体的・実践的な減災教育を実践してほしい。そのためにできることから始めること。まずやってみること。」と参加者への期待を込めた言葉で、３日間の研修が終了しました。

【参加者（先生）の声】

○被災地を訪問して、いかに当事者意識を持つことが大切かを学んだ。減災教育を推進したいという熱い思いが一層高まった。

○カリキュラムをより良いものに改善するヒントがたくさん見つかった。「自校の防災」だけでなく「地域の防災」を動かせる力が教育にはあると感じた。

○防災を担当し、試行錯誤している全国の先生とつながることができ、互いに手を取り合って取り組んでいけると心強くなった。

○自分の減災に対する価値観が大きく変わった。「悲惨なもの」という印象はもちつつも、未来志向で向き合っている現地の人たちと出会い、いざという時に命を守り、未来を創るために減災はあるのだと感じた。

○減災への意識を自分事として捉えるようになった。生徒や学校、地域に今回学んだことを伝えたい。教師は未来の創造者である子どもたちと一番身近に接する立場にあるということを再確認した。

○実際に自分の目で被災地を確認し、被災された方の話を聞き、やらなきゃいけないと強く思った。

○まず何より、この３日間の学びを子どもたちに伝えたい。現地の方々や他の参加者の思いや実践を、ひとりでも多くの子ども、先生、保護者や地域に還元したい。

○学校全体で取り組む必要性を強く感じた。教職員に周知し、意識を高めて全校をあげて減災に取り組みたい。

【参加者（ユネスコ協会職員）の声】

○全国の様々な校種の先生方と交流をもつことができ、各校における取組の現状を知ることができた。子どもたちの未来のために何ができるのかを考えるときに、直接先生方のご意見を伺うことができたことは、有意義であった。

○学校と協働で事業を行うことで、これまでのユネスコ協会の取組をより強化することにつながると考えられるため、多くのユネスコ協会・クラブの積極的な参加を期待する。

○協働校と一緒に参加でき、研修中から今後の取り組みについて話し合うことができた。

○学校現場を視察し、学校と地域がどのように連携していけばよいか多くの手掛かりが得られた。

【参加者（学生スタッフ）の声】

○将来、教育現場に出た時に今回訪問した学校のような減災教育に取り組める教員になれるよう今後も学びを深めたい。以前より、具体的に何がしたいのか見えた。

○全国の先生が熱い思いで学び、減災に取り組んでいることを目の当たりにした。自身も常に学びながら知識や情報をアップデートすることを忘れない教員になりたいと改めて感じた。

2023 年度　第 10 回「アクサ ユネスコ協会　減災教育プログラム」教員研修会参加校・団体一覧

【 2023 年度助成校（30 校） および ユネスコ協会(2団体) 】

	校種		学校・団体名
1	小	北海道	札幌市立北光小学校
2	中	北海道	むかわ町立鵡川中学校
3	小	宮城	気仙沼市立鹿折小学校
4	中	宮城	気仙沼市立鹿折中学校
5	中	宮城	石巻市立北上中学校
6	中	埼玉	三郷市立早稲田中学校
7	小	千葉	市川市立宮田小学校
8	高	東京	東京都立大島高等学校
9	高	東京	東京都立山崎高等学校
10	中	石川	珠洲市立緑丘中学校
11	高	福井	福井南高等学校
12	高	長野	長野県伊那北高等学校
13	小中	静岡	静岡市立大河内小中学校
14	高	愛知	日本福祉大学付属高等学校
15	高	京都	京都府立東陵高等学校

	校種		学校・団体名
16	小	大阪	大阪教育大学附属天王寺小学校
17	小	大阪	堺市立新檜尾台小学校
18	高	奈良	奈良女子高等学校
19	小	和歌山	紀美野町立下神野小学校
20	高	鳥取	鳥取県立鳥取西高等学校
21	中	島根	出雲市立河南中学校
22	小中	広島	福山市立鞆の浦学園
23	中	愛媛	松山市立旭中学校
24	高	愛媛	済美高等学校
25	小	福岡	八女市立八幡小学校
26	中高	福岡	福岡雙葉中学校・高等学校
27	高	福岡	福岡県立三池工業高等学校
28	中	宮崎	延岡市立延岡中学校
29	小	鹿児島	徳之島町立亀徳小学校
30	高	鹿児島	鹿児島県立徳之島高等学校
31		奈良	奈良ユネスコ協会
32		福岡	大牟田地方ユネスコ協会